

2. 特色のある教育活動

(1) キャリア教育の充実

I. 基本的な考え方

キャリア教育の「一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」という趣旨から、以下の立場の充実を目指す。

「職業人」：様々な職種への興味や関心を広げられることを目指す。

「家庭人」：家族の中の役割に気付き、できることを広げられることを目指す。

「個人」：視野を広げ豊かに生活したり、社会に参画したりするようにすることを目指す。

II. 身に付けさせたい4つの力

A なかよしパワー・・・周りの人とよい関係をつくる力（人間関係形成・社会形成能力）

※違う立場を尊重し、周囲とよい関わり方ができる。

	関わりを考える中心	目指すよい関係の姿
低	・友達や家族を中心に	・仲良くする
中	・学校や地域を中心に	・協力し合う
高	・社会全体を中心に	・理解し合う

B がんばりパワー・・・自分のよさを知り、**前向きにがんばろうとする力**（自己理解・自己管理能力）

※自分の長所を生かして、よいと思うことを進んで行い、最後まであきらめない。

	どのような活動をしていきたいか
低	・自分のすべきことをする。
中	・難しいと感じたことにも取り組んでみる。
高	・自分のよさを発揮して取り組む。

C **かいけつ**パワー・・・主体的に課題を**解決する力**（課題対応能力）

※課題を見つけ、必要な情報を収集し、発信することができる。

	課題の解決方法	取り組み方
低	・教師から与えられた情報や、教科書の情報を利用	・時間いっぱい
中	・自分で情報を収集	・教師と一緒に課題解決の流れで
高	・収集した中から、選択し、試行錯誤	・自分で計画的に

D **めあて**パワー・・・なりたい自分を見つける力（キャリアプランニング能力）

※今や未来についての夢や目標をもち、主体的に取り組む。

	なりたい自分を見つける際の手がかり
低	・自分の1日の行動を振り返って
中	・今までの自分を見つめ直して
高	・将来の自分の姿を想像して

Ⅲ. 取組の具体

1. つながりマップを中心とした、取組の精選・明確化

- ・キャリア教育について、「核となる活動」と「周辺の活動」を教科横断的に位置づけた「つながりマップ」を各学年学期に1枚作成し、キャリア教育の具体を分かりやすく示す。

※「核となる活動」・・・各学年の授業の中で、キャリア発達が最も期待できるもの。

※「周辺の活動」・・・身に付けさせたい力で関連するものや、学習内容で関連するもの

2. 体験活動の充実

- ・授業での豊かな体験活動（GT を招いた体験活動、近隣の施設での活動、異校種・異学年との交流）
- ・校外学習（「友達との関りを深める」「地域を知る」「実際に働く人々の姿や思いを知る」）

3. キャリアの視点を意識した授業づくり

キャリア発達は、学習内容（何を学ぶか）とともに、学習過程（どう学ぶか）とも密接にかかわっている。キャリア発達を意識して授業を展開することによって、「核となる活動」と直接つながらない内容の学習であっても、キャリア発達が期待できる。

授業5	キャリアパワーへの支援
①学習問題 を自分 事として とらえさ せる。	<C>かいけつパワー ●課題に気付かせたり、学習（答えや方法）の見通しをもたせたりすることによって、課題解決のめあてをもたせる。 ・「～を学びたい。」「～ができるようになりたい。」「（難しいような内容だから）友だちと相談して解決したい。」など <D>めあてパワー ●生活につながる題材を提示することで、学びに意味をもたせる。 ・「～に使えそうだ。」など ●「なりたい自分」につながる「学び方」を提示し、挙手するなどによって、「学び方」についてのめあてをもたせる。 ・「（自分の意見が言える人になるために）発表をがんばりたい。」「（家庭学習で振り返るために）ポイントをノートにメモしたい。」など ※「なりたい自分」については別途話し合う。
②考えを 広げ、深 め さ せ る。	<A>なかよしパワー ●ペアでの相談の後は全体で発表させるなど、成果を求める。 ・「～さんの考えになるほどと思った。」「～さんに教えてもらった。」「～さんが分かってくれた。」など がんばりパワー ●上位の子は「友だちに説明する」、低位の子は「分かるまで質問する」など、実態に応じて「がんばる中身」を示す。 ・「もっとやりたい。」「難しいけど、やりきりたい。」など <C>かいけつパワー ●自分なりに解決させる、よりよい解決方法を探らせる、身に付けさせたい解決の方法を焦点化するなどして、その解決方法のよさを感じ取らせる。 ・「図をかくとよく分かった。」「複数の資料を調べたから、自分の考えがはっきりした。」など
③課題解 決の過程 を振り返 らせる。	<C>かいけつパワー ●習得した解決方法を活用することで、それを確かにする。 ・「分かったことを使えば、～ができた。」など

④学習内容 を整理、確認 させる。	<C>かいけつパワー ●習得した解決方法を確認することによって、それを確かにする。 ・「～が分かった。」など
⑤学習の 成果を自 覚させる。	●学びを振り返らせることによって、<A><C><D>のキャリアパワーを自覚させる。また、称揚することによって、強化する。 <D>めあてパワー ●今後の学びや「なりたい自分」へのつながりにふれることによって、学びに意味をもたせる。 ・「～は大切なな。」「これからも～したい。」など

4. キャリア発達を振り返る場面の充実と記録のまとめ

(1) 県のキャリアパスポート

県の作成したキャリアパスポートを、本校でも活用する。補助資料は、本校で作成しているキャリアノートを活用する。

(2) 児童用キャリアノート

キャリア教育関係の物を1つにまとめて保管するようにする。総合ファイル、各教科のノートなど、別々に保管しているものは、必要なものをコピーして綴じるようにする。このノートは、1年生～6年生まで持ち上がりで使用する。

しょうない キャリアノート  (シールを貼る)		← その他は何も書かない。
名	名	
前	前	

①キャリアノートの運用について

- ・A4 フラットファイルを作成する。
- ・1年生で作成し、6年間持ち上がる。(1学期の核となる活動の時期をめやすに児童に配布)
- ・原則、教室保管とする。
- ・**年度末に家庭に持ち帰り**、保護者からのコメント又はサインをいただく。
- ・6年の職業体験の学習で使った物を綴じる。
- ・6年生は、キャリアパスポートと一緒に中学校に送る。

②キャリアノートの中身

- ・自己紹介カード(4月に1枚)・学期初めのめあてカード(2・3学期に1枚ずつ)
- ・学期終わりの反省カード(各学期1枚、年間合計3枚)
- ・授業終わりの振り返りカード(核となる活動:学期1～2枚、周辺の活動:学期4枚程度)

③各カードの詳細

○学年初めのめあてカード・各学期終わりの反省カードは、県キャリアパスポートのものを参考に、学年で統一する。

○各学期初めのめあてカードは、学年の実態に合わせて、内容を学年で相談・作成する。

※日々の学習や行事で確認し、意識を継続させる。

(2) 教師用キャリアノート

誰がどの学年を担当してもキャリア教育の取組ができるように、キャリア教育関連で使った資料やワークシートをファイルに綴じていき、記録を残していくことを目的とする。児童用のノートの内容、教材や活動の要項、外部の方の連絡先などをファイリングするようにする。また、サーバの各学年フォルダにキャリア教育というフォルダを作り、データを残していく。

<残しておくもの>

- ・児童用のキャリアノートにファイルしたもの
- ・つながりマップに記載されている教科のワークシートやノート
(・未使用のもの1部 ・記入例として、児童が書き込んだもののコピー1部)
- ・使用した教科書や資料のコピー
(・出版社・ページ数・URL・使用した大まかな日付を記入)
- ・学年で作成した、総合や生活の学年会資料
- ・外部の方の連絡先をまとめたもの

